嵩山のまちを探検しよう！

①蛇穴(じゃあな)

昔、原始人が住んでいたといわれている。また、長篠の戦いで負けた武田勝頼の軍資金が埋蔵され、今でも武者が守っているともいわれている。

嵩山蛇穴遺跡は、浅間山の山腹、標高約１４０ｍの位置に所在している。この地区は、有数の石灰岩地帯であり、長年の風雨による浸食作用によって各所に洞窟が形成された。

②浅間神社(せんげんじんじゃ)

浅間神社は、天平勝宝２年（奈良時代）に富士山のふもとにある浅間神社と同時に作られました。

由来は、富士社とともに、駿河（今の静岡県）富士浅間神社から勧請したと伝えられ、現存する棟札の中で最も古いものは、享保７年 12 月のものである。それには、奉修浅間大菩薩とあり、享保 13 年９月のものには、原川浅間、寛政 12 年６月 29 日のものは、原川浅間宮となっています。そして、明治維新の際、原川社と改めた。明治 41 年２月 15 日同字鎮座大山浅間社祭神大山の祇の命を合祀しました。

浅間神社の三社には、それぞれ神様がいます。

③姫街道(ひめかいどう)

姫街道（ひめかいどう）とは、東海道にある新居の関所（取り調べをする所）を通るのをいやがる女性たちが通った道で、東海道の見附～三ケ日～嵩山～御油を通る東海道の脇往還。

なぜ、こう呼ばれるようになったかという理由は、江戸時代に“入り鉄砲に出女”といって，大名の妻や子が江戸から出ていくことと、鉄砲を持ちこまれることをおそれて厳しく調べられました。姫街道は、本坂通（ほんざかどおり）とも言います。関所での取締りの厳しい東海道ではなく、本坂通りを通ったことから”姫街道”と呼ばれるようになった。

本坂通には、茶屋や宿など、色々な店がたくさんあって、賑わっていました。

④正宗寺(しょうじゅうじ)

中国のえらいお坊さんが、正宗寺（しょうじゅうじ）に足をとめた。そのお坊さんは、ここが嵩山（すうざん）の景色によく似ていることから、ここを嵩山（すせ）と名づけ、山中に寺を建てた。

正宗寺が建てられたのは、鎌倉時代といわれています。正宗寺の名前の意味は、お坊さんが学んだ寺の名前、天目山獅子正宗禅寺（てんもくざんししょうじゅうぜんじ）に由来すると伝えられている。

寺は、何度も火災にあってしまいましたが、そのたびに再建され、今でもたくさんの文化財が保管されています

嵩山には、このほかにも多くの歴史遺産や資料、自然など調べ出したらきりがありません。１度嵩山を訪れ、自分の足でまちを探検してみてはいかがですか？

※引用文献　郷土誌　嵩山（発行者－郷土誌刊行委員会　嵩山小学校：Ｈ５年７月発行）

嵩山小　市川　享稔